

日本初!! 都市景観画の巨匠、カナレットの大規模展 モネ、ホイッスラーも愛した水の都、来春 京都へ―

カナレットとヴェネツィアの輝き

Canaletto and the Splendour of Venice

会期／2025年2月15日（土）～4月13日（日） 会場／京都文化博物館 4・3階展示室

2025年2月15日（土）～4月13日（日）の期間、京都文化博物館にて特別展「カナレットとヴェネツィアの輝き」を開催します。

ヴェドゥータ(景観画)の巨匠として知られているカナレット(1697-1768)。本展は、その全貌を紹介する**日本で初めての大規模展覧会**です。スコットランド国立美術館などの英国コレクションを中心に、油彩、素描、版画などの作品約60点をご覧ください。カナレットの作品を通してその魅力と制作背景に迫るとともに、カナレット以前、同時代、そしてそれ以後の作家の作品もあわせて展覧することで、これまで日本ではほとんど取り上げられることのなかったヴェドゥータの広がりをご紹介します。

広報用画像⑬



展覧会のみどころ

1. 日本初！ヴェドゥータ（景観画）の巨匠、カナレットの大規模展

都市や名所を精密に描いた景観画「ヴェドゥータ」が発展したのは、18世紀のことです。カナレットの描くヴェドゥータはヴェネツィアを訪れた旅行者から熱烈に愛好されました。本展はヴェドゥータの巨匠として知られるカナレットの画業を紹介するとともに、ヴェドゥータの歴史的展開をまとめてご紹介する日本初の展覧会です。

2. カナレットが記録したヴェネツィアの輝き

カナレットが生きた18世紀、グランド・ツアーと呼ばれる旅行が最盛期を迎えました。その目的地であったヴェネツィアを訪れた旅行者が、旅の記念にと争うように求めたのが、カナレットの絵画だったのです。大運河の水辺からたちあがる壮麗な建築や輝く水面、祝祭の景色など、旅行者の求める理想的なヴェネツィアを描き、人気を博しました。

3. モネ、ホイッスラーも愛した水の都ヴェネツィア

カナレットが緻密に、かつ意図的な操作を重ねながら描き出したヴェネツィアの景観は、カナレット以後も、多くの画家たちを魅了し続けます。ホイッスラーにブーダン、シニャック、そしてモネに至るまで、外国から訪れた画家たちもまた、聖俗が同居する魅力的な都市ヴェネツィアの姿をキャンバスに表現しました。



カナレット (Canaletto, 1697-1768)

1697年、劇場の舞台デザイナー兼舞台背景画家を父に、ヴェネツィアに生まれる。本名ジョヴァンニ・アントニオ・カナル。1719年、父に伴い、オペラの舞台デザインの仕事のためローマに赴き、景観画家の先達と知り合ったと言われる。出身地ヴェネツィアの都市景観を、壮麗かつ緻密に描いた景観画「ヴェドゥータ」で名を馳せる。1746年からはパトロンがいる英国に長期滞在した。1768年、ヴェネツィアで没する。享年71歳。

肖像部分原画：ジョヴァンニ・バティスタ・ピアツェッタ
画面構成・彫版：アントニオ・ヴィゼンティーニ
《カナレットとヴィゼンティーニの肖像》（部分）
1735年 エッチング、紙 26.6cm×41.6cm 個人蔵

ヴェドゥータ（景観画）とは

都市の景観や古代の遺跡などを精密な透視図法に基づいて描き出した、風景画の中の一ジャンルです。画家による理想化が許容された風景画とは異なり、土地の景観を、可能な限り正確に再現することが求められました。グランド・ツアーの旅行客の間で人気を博し、18世紀のヴェネツィアやローマで発展します。

グランド・ツアーとは

支配階級や貴族の子弟たちが学業の終了時に行った長期間に渡る周遊旅行で、17世紀末から始まり18世紀後半の英国で最盛期を迎えました。目的地の多くはイタリアで、ローマとヴェネツィア、フィレンツェが人気でした。

Chapter

1

カナレット以前のヴェネツィア

Venice before Canaletto

ヴェネツィアのイメージを、カナレット以前に描かれた作品を通して辿ります。

ヴェネツィアにおける都市を描く伝統は、15世紀にまで遡ります。遠近法の成立が都市景観に対する関心を高めたことで、「鳥瞰図」や「物語絵」として、都市のイメージが客観的に再現されるようになりました。その後16世紀末から17世紀にかけて北方からやってきた画家たちの描くラグーナ（潟）の景観が、後のヴェドゥータの発展へと繋がっていきます。

一方、18世紀、ヴェネツィアの新興貴族たちの間で盛んに行われた邸宅の増改築をはじめ、国際的に活躍していたのがジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロでした。彼の作品を通じて、カナレットが活躍したヴェネツィアの文化を紹介します。



広報用画像① ネーデルラントの画家《ラグーナから見たヴェネツィア全景》

1580–1600年頃 油彩／カンヴァス 66.0×193.0cm

クライスト・チャーチ絵画館、オックスフォード

By permission of the Governing Body of Christ Church, Oxford

ヴェネツィアの裕福な貴族ラビア家の邸宅パラッツォ・ラビアの大広間装飾画のモデル（油絵下絵）で古代ローマの歴史の一場面が描かれています。白いドレスに身を包んだクレオパトラの手に接吻するのは、赤いマントを羽織った甲冑姿のアントニウスです。完成作の壁画はティエポロの代表作。

広報用画像②

ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ 《アントニウスとクレオパトラの出会い》

1747年頃 油彩／カンヴァス 66.8×38.4cm

スコットランド国立美術館

© National Galleries of Scotland



カナレットのヴェドゥータ

Canaletto's Vedute

カナレットがヴェドゥータを描き始めたのは、1719年頃とされています。光と影の効果を追求した初期作品からは徐々に変化し、1730年には、澄み渡る空や輝く水の波紋の表現、定規を用いて堅固さを強調した建物の描写など、カナレットの定型的な表現が定着していきました。

ヴェドゥータ本来の主役ではない人物描写もまた、カナレットの特徴です。様々な仕草をした人々の姿が整然とした街の景観に動きを与えると同時に、観る者を飽きさせない魅力の一つとなっています。

カナレットのヴェドゥータは、目に見える景観をそのまま再現しているわけではありません。ありえない建物の組み合わせや、景観を描く視点の高さを工夫することで、人々が「見たいと思っている風景」を画面にとどめることに成功しました。

ヴェネツィアにおける政治の中心地であり、海からこの地を訪れる旅人の玄関口となる、パラッツォ・ドゥカーレ（元首公邸）付近が描かれています。右側にはサン・マルコ小広場への入り口にある2本の柱のうち、西側に立つ聖テオドルスの柱があり、カナル・グランデ（大運河）の対岸にはサンタ・マリア・デッラ・サルデーニャ聖堂とドガーナ（税関）が見えます。

ただ実際は、パラッツォ・ドゥカーレ前の広場には本作の視点を確保できるような高さの建物はありません。まるでドローンをを用いたような視点であるにもかかわらず、あくまで「自然」であるところに、カナレットの描写のマジックが遺憾無く発揮されています。

京都會場から出品

広報用画像③



カナレット

《モーロ河岸、聖テオドルスの柱を右に西を望む》

1738年頃 油彩/カンヴァス 110.5×185.5cm スフォルツァ城絵画館、ミラノ
Pinacoteca del Castello Sforzesco-© Comune di Milano / foto
Daniele De Lonti 2024

ヴェネツィアの華やかな祭りの中でも一層エキサイティングなのが、レガッタです。カナル・グランデ（大運河）で行われるボートレースで、時には賓客を歓迎するためにも開催されました。華やかに彩られた舟や、漕ぎ手が身につけるそれぞれのユニフォームが祭りの雰囲気盛り上げます。建物の窓や屋根にも、祭りを見物するたくさんの人々の姿を見ることができます。

広報用画像④

カナレット《カナル・グランデのレガッタ》

1730-1739年頃 油彩/カンヴァス 149.8×218.4cm

ボウズ美術館、ダラム

The Bowes Museum, Barnard Castle, Co. Durham, England



数多いヴェネツィアの祝祭の中でも特に重要なのが、「海とヴェネツィアの結婚式」が行われる、キリスト昇天祭です。ブチントーロと呼ばれる御座船でアドリア海に漕ぎ出したドージェ（元首）が、「海よ、汝と結婚する」と唱えながら金の指輪を海に投げ入れます。緋色の屋根に緋色の旗を掲げているのがブチントーロで、金箔を貼り廻らした船体が輝いています。カナレットは、制作にカメラ・オブスキュラを用いていました。まるで動き出しそうな人々の描写は、この機械に映った動画から着想を得たのかもしれませんが。

広報用画像⑤

カナレット

《昇天祭、モーロ河岸に戻るブチントーロ》

1738-1742年頃 油彩/カンヴァス 106.5×106.5cm

レスター伯爵およびホウカム・エステート管理委員会、ノーフォーク

The Earl of Leicester and the Trustees of the Holkham Estate



オーストリア継承戦争でヴェネツィアの旅行者が減ったカナレットは、仕事を求めて1746年に渡英します。本作は、ロンドンの遊興施設「ラネラー」の目玉であった巨大なロトンダ（円柱形建築物）を描いた作品です。直径約46メートルの室内には演奏席があり、その周囲を52のボックス席が囲みます。幼い頃のモーツァルトもここで演奏しました。

窓や戸口から差し込む光が影をもち、シャンデリアが複数吊るされたロトンダの内部空間を、立体的かつダイナミックなものとして演出しています。

広報用画像⑥

カナレット

《ロンドン、ラネラーのロトンダ内部》

1751年頃 油彩／カンヴァス 51.0×76.0cm

コンプトン・ヴァーニー、ウォリックシャー

© Compton Verney / Bridgeman Images



本作に描かれたのも、キリスト昇天祭の日のモーロ河岸です。右側に、金箔が光り輝くブチントーロが描かれています。本作で特徴的なのは、光の反射の表現です。ブチントーロやゴンドラに散りばめられた光の粒が、船を漕ぐ人々にも降り注いでいます。

最も明るい部分を点で描く方法は、晩年に近づくにつれて顕著になっていきました。そしてその色調もまた、少しずつ暗さが加わり、コントラストが強調されていきます。



広報用画像⑦

カナレット《昇天祭、モーロ河岸のブチントーロ》

1760年 油彩／カンヴァス 58.3×101.8cm ダリッジ美術館、ロンドン

Dulwich Picture Gallery, London

Chapter

3

カナレットの版画と素描

Canaletto's Etchings and Drawings – Around the Creative Process

素描や版画、そしてカメラ・オブスキュラをキーワードに、カナレットの創造の秘密を探ります。

写真がまだ存在しない時代において、複製を可能とする版画は、極めて価値のあるメディアでした。1735年に刊行された『ヴェネツィアのカナル・グランデの景観』は、カナレットの原画を元にアントニオ・ヴィゼンティーニが彫版した作品集で、カナレットのパトロンであるジョゼフ・スミスが企画しました。発注のための見本帖だったために、機械的で規則的な手法で制作されています。一方、カナレットが自刻した版画作品は、より自由な、独自の筆致を残しています。素描もまた、油絵にはない、より自由な画家の手の痕跡を伝えます。



カメラ・オブスキュラ

カメラ・オブスキュラ（Camera Obscura）とは、光学の原理を利用して外の景色を投影する装置で、今日の「カメラ」の語源となりました。投影された景色は反転していますが、そのイメージをなぞると、正確な遠近法を用いて描くことが可能となります。カナレットは、カメラ・オブスキュラを用いて制作した画家の一人でした。

《レフレックス・カメラ・オブスキュラ》

ロンドン、ジョーンズ製 1800年頃

東京富士美術館

© 東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

広報用画像⑧
カナレット
《ドーロ風景》

1744年以降に刊行 エッチング／紙 29.8×42.8cm 第3ステート
スコットランド国立美術館
© National Galleries of Scotland



広報用画像⑨
カナレット

《サン・マルコ広場でのコメディ・デラルテの上演》

1755–1757年? ペン、インク、淡彩／紙 20.5×31.7cm
ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館、ロンドン
© Victoria and Albert Museum, London.



Chapter 4

同時代の画家たち、後継者たち—カナレットに連なる系譜の展開

Canaletto's Contemporaries and Successors — The Artistic Genealogy from Canaletto

カナレットの影響を受けた同時代の画家たちと、英国の後継者たちが制作したヴェドゥータとカプリッチョ（綺想画）をご紹介します。

ベルナルド・ベロットやフランチェスコ・グアルディは、カナレットの影響のもと、異なるアプローチによるヴェドゥータを数多く制作しました。カナレットの甥ベロットは、後にドレスデンやワルシャワで宮廷画家としての立場を獲得します。残されたベロットのヴェドゥータは、第二次大戦後、空襲で破壊された二つの街の再建に大きく寄与することになりました。

カナレットの約10年間に及ぶ英国滞在を通して、英国でもまた、カナレットの影響を受けた画家によるヴェドゥータが多数制作されます。それらは同時に、カナレットによるヴェドゥータの独自性を浮き彫りにするものでもあるでしょう。

トスカーナ州北西部の街ルッカのサン・マルティーノ大聖堂の広場を、破綻のない洗練された構図で描いています。ベロットは20歳のとき、ローマ旅行の途中でルッカを訪れます。ヴェネツィアに帰国した彼は、現地でのスケッチを元に本作を描きました。

広報用画像⑩
ベルナルド・ベロット

《ルッカ、サン・マルティーノ広場》

1742–1746年 油彩／カンヴァス 50.8×72.0cm
ヨーク・ミュージアム・トラスト（ヨーク美術館）

York Museums Trust (York Art Gallery). Presented by F.D.Lycett Green through The Art Fund, 1955.



広報用画像⑪
 フランチェスコ・グアルディ
 《小さな広場と建物のあるカプリッチョ》
 1759年 油彩／カンヴァス 35.5×52.0cm
 東京富士美術館
 © 東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom



ロンドンのセント・ポール大聖堂とヴェネツィアの運河を同一画面にまとめた、カプリッチョ（綺想画）です。奇想天外なアイデアを意味するカプリッチョとは、実在するものと空想上のものを自在に組み合わせて構成された架空の景観画です。作者のマーローは、異なる土地のランドマークを合体させるという大胆な発想と構成で、虚構の大空間を創造しました。

広報用画像⑫
 ウィリアム・マーロー
 《カプリッチョ：セント・ポール大聖堂とヴェネツィアの運河》
 1795年頃？ 油彩／カンヴァス 129.5×104.1cm
 テート
 Photo: Tate



Chapter 5

カナレットの遺産 *Canaletto's Legacy*

最後に、風景画の世紀とも言われる19世紀にヴェネツィアはどのように描かれたのか、英仏の画家たちに焦点をあわせて、その変遷を辿ります。

カナレットが定着させたヴェネツィアの「絵になる」イメージは、多くの画家たちをも魅了します。印象派へと至る19世紀後半の萌芽を感じさせるものがある一方で、当時のロマン主義的な潮流を背景に、ヴェネツィアの暗部を描き出す作品も登場します。それはカナレットが導いたヴェドゥータの世界とは異なる、極めて近代的なヴェネツィアのイメージでした。同時に、この都市を描きたいという憧れは、カナレットのヴェドゥータに端を発するものであることもまた確かでしょう。

カナレットのヴェドゥータにも描かれていたパラッツォ・ドゥカーレ（元首公邸）とパラッツォ・デッレ・プリジオーニ（牢獄）、その間を繋ぐ「溜息橋」が描かれています。牢獄の戸口から、処刑された裸の囚人が、2人の男性によって運ばれています。作者のエティは、ヴェネツィアのランドマークの間で人知れず死んだ哀れな囚人に思いを馳せながら、大胆な構図のもと描きだしました。

広報用画像⑬
 ウィリアム・エティ
 《溜息橋》

1833–1835年 油彩／カンヴァス 80.0×50.8cm
 ヨーク・ミュージアム・トラスト（ヨーク美術館）
 York Museums Trust (York Art Gallery)



広報用画像⑭
ウジェーヌ・ブーダン
《カナル・グランデ、ヴェネツィア》

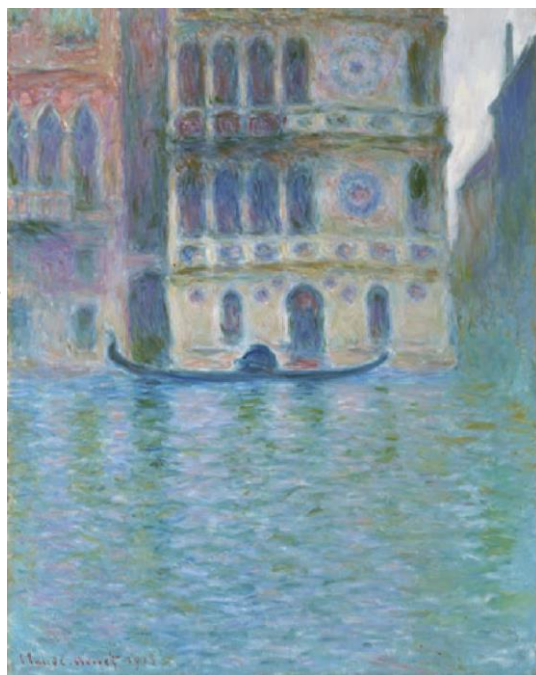
1895年 油彩／カンヴァス 51.0×74.5cm
東京富士美術館
© 東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom



1908年、初めてヴェネツィアを訪れたモネは、37点におよぶ油彩の連作を描きました。連作「ヴェネツィア」に描かれたのは、いずれもアカデミア橋以东のカナル・グランデ沿いの風景です。モネの眼差しが捉えるのは、その景観でも人々の営みでもなく、水面の光や街の空気、曖昧な輪郭線をもつ建築物とゴンドラであり、その周囲は大胆にトリミングされています。平面的な絵画世界全体に、ヴェネツィアの水と光、大気が大きく広がっていきます。

広報用画像⑮
クロード・モネ
《パラッツォ・ダーリオ、ヴェネツィア》

1908年 油彩／カンヴァス 92.3×73.2cm
ウェールズ国立美術館、カーディフ
© Amgueddfa Cymru - Museum Wales



開催概要

- [展覧会名] カナレットとヴェネツィアの輝き
- [会 期] 2025年2月15日（土）～4月13日（日）
- [会 場] 京都文化博物館 4・3階展示室 [〒604-8183 京都府京都市中京区三条高倉]
- [開室時間] 10:00～18:00（金曜日は19:30まで）※入場はそれぞれ30分前まで
- [入場料金] 一般 1,800円（1,600円） | 大高生 1,200円（1,000円） | 中小生 600円（400円）
（税込） ※（ ）内は前売および20名以上の団体料金。 ※未就学児は無料（ただし、要保護者同伴）。
※学生料金で入場の際には学生証をご提示ください。 ※障がい者手帳などをご提示の方と付き添い1名までは無料。
※上記料金で2階総合展示と3階フィルムシアターもご覧いただけます（ただし催事により別途料金が必要な場合があります）。
- [休 館 日] 月曜日（ただし2月24日は開館）、2月25日（火）
- [主 催] 京都府、京都文化博物館、毎日新聞社、MBSテレビ、スコットランド国立美術館
- [後 援] 駐日イタリア大使館、ブリティッシュ・カウンシル
- [協 賛] DNP大日本印刷、大和ハウス工業
- [協 力] 日本航空、日本貨物航空、箱根ガラスの森美術館、ITAエアウェイズ
- [お問合せ] 京都文化博物館 Tel. 075-222-0888（代表）
<https://www.bunpaku.or.jp>

※記載内容に変更が生じる場合があります。最新の情報は博物館公式サイトでご確認ください。

本展は、政府による美術品補償制度の適用を受けています。

This exhibition is covered by the Japanese Act on the Indemnification of Damage to Works of Art in Exhibitions (Act No.17 of 2011)

【広報用画像申込書】 カナレットとヴェネツィアの輝き

本展の展示物等の画像を、広報用素材としてご提供いたします。
下記、申込フォームよりお申込ください。

【広報用画像申込フォーム】

<https://forms.gle/XtY3FVEXn9D568G8A>

※難しい場合は申込書に必要事項をご記入のうえ、広報事務局までご送付ください。



貴社名／	
お名前／	
部署／	ご所属／
貴媒体名／	
媒体種／	
媒体発行・運営社名	
サイトURL／	
掲載号・露出予定日／	月号（ 月 日号）／ 月 日発売予定 ☐ WEBへの転載あり
TEL／	FAX／
E-MAIL／	
媒体プレゼント用チケット／ ☐ 希望（2組4名まで） ※1点以上の広報用画像使用必須 ※提供枚数に達した場合、提供を終了いたします ※発送は開幕直前になります お送り先／〒	
ご質問など／	

報道に関するお問合せ

「カナレットとヴェネツィアの輝き」京都展広報事務局（ネネラコ内）
E-MAIL | canaletto_kyoto@nenelaco.com TEL | 06-6225-7885 FAX | 06-7635-7587
〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル

【広報用画像クレジット一覧】 カナレットとヴェネツィアの輝き

【広報用画像使用に関する注意事項】

- 本展広報目的での使用に限ります（会期終了まで）。使用後は、データの破棄をお願いいたします。
- 展覧会名、会期、会場、クレジットは必ず記載してください。
- 作品画像は全図でご使用ください。トリミング、文字乗せなどの加工・変更はできません。
- 転載、再放送など、二次使用される場合は別途申請をお願いいたします。なお、展覧会終了後の二次使用はできません。
- webサイトに掲載する場合は、72dpi 以下、400×400pixel 以下の解像度にし、コピーガードをかけてご掲載ください。
- 基本情報、画像使用などの確認のため、グラブリ・原稿段階のものを「広報事務局」にお送りください。
- 掲載・放送後は、必ず掲載紙（誌）、URL、同録DVDを下記「広報事務局」までお送りください。

【キャプション一覧】 ご希望の画像番号の□に✓をお願いします。

番号	クレジット一覧
1 ☐	ネーデルラントの画家《ラゲーナから見たヴェネツィア全景》1580-1600年頃 クライスト・チャーチ絵画館、オックスフォード By permission of the Governing Body of Christ Church, Oxford
2 ☐	ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ《アントニウスとクレオパトラの出会い》1747年頃 スコットランド国立美術館 © National Galleries of Scotland
3 ☐	カナレット《モーロ河岸、聖テオドルスの柱を右に西を望む》1738年頃 スフォルツァ城絵画館、ミラノ Pinacoteca del Castello Sforzesco-© Comune di Milano / foto Daniele De Lonti 2024
4 ☐	カナレット《カナル・グランデのレガッタ》1730-1739年頃 ボウズ美術館、ダラム The Bowes Museum, Barnard Castle, Co. Durham, England
5 ☐	カナレット《昇天祭、モーロ河岸に戻るブチントーロ》1738-1742年頃 レスター伯爵およびホウカム・エステート管理委員会、ノーフォーク The Earl of Leicester and the Trustees of the Holkham Estate
6 ☐	カナレット《ロンドン、ラネラーのロトンダ内部》1751年頃 コンプトン・ヴァーニー、ウォリックシャー © Compton Verney / Bridgeman Images
7 ☐	カナレット《昇天祭、モーロ河岸のブチントーロ》1760年 ダリッジ美術館、ロンドン Dulwich Picture Gallery, London
8 ☐	カナレット《ドーロ風景》1744年以降に刊行 第3ステート スコットランド国立美術館 © National Galleries of Scotland
9 ☐	カナレット《サン・マルコ広場でのコメディ・デラルテの上演》1755-1757年? ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館、ロンドン © Victoria and Albert Museum, London.
10 ☐	ベルナルド・ベロット《ルッカ、サン・マルティーノ広場》1742-1746年 ヨーク・ミュージアム・トラスト（ヨーク美術館） York Museums Trust (York Art Gallery). Presented by F.D.Lycett Green through The Art Fund,1955.
11 ☐	フランチェスコ・ガアルディ《小さな広場と建物のあるカプリッチョ》1759年 東京富士美術館 © 東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom
12 ☐	ウィリアム・マーロー《カプリッチョ：セント・ポール大聖堂とヴェネツィアの運河》1795年頃? テート Photo: Tate
13 ☐	ウィリアム・エティ《溜息橋》1833-1835年 ヨーク・ミュージアム・トラスト（ヨーク美術館） York Museums Trust (York Art Gallery)
14 ☐	ウジェーヌ・ブーダン《カナル・グランデ、ヴェネツィア》1895年 東京富士美術館 © 東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom
15 ☐	クロード・モネ《パラッツォ・ダーリオ、ヴェネツィア》1908年 ウェールズ国立美術館、カーディフ © Amgueddfa Cymru - Museum Wales
16 ☐	本展先行チラシビジュアル ※クレジット不要

報道に関するお問合せ

「カナレットとヴェネツィアの輝き」京都展広報事務局（ネネラコ内）
E-MAIL | canaletto_kyoto@nenelaco.com TEL | 06-6225-7885 FAX | 06-7635-7587
〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル